

明治大学 校友会 秋田県支部会報

第 28 号

H 30. 8. 13

県支部総会

新支部長に鶴田氏

加賀氏は 若手の出席目立つ

明治大学校友会秋田県支部の2018年度総会が7月7日、秋田市の秋田キャッスルホテルで開かれ、任期満了に伴う役員改選で、新支部長に県議会議長の鶴田有司氏（昭和50年・経営卒）を全会一致で選出、新執行部がスタートした。

支部長を2期4年務めた加賀勝己氏（弁護士、同40年・法卒）は「次の世代に引き継ぎたい」として、相談役に就任した。

新支部長の鶴田氏は就任あいさつで「皆さんのご協力をいただき、明治大学の名を汚

さないよう頑張っていく。今後は地方からの声を大にして校友会、大学を盛り上げていきたい」と力強く語った。

総会には61人の校友らが駆け付け、このうち平成卒業組が18人出席するなど、これまでにないほど若手の姿が目立った。

来賓として出席した荒川利治・明治大学情報担当常勤理事は「私は秋田市生まれであり、DNAは100%秋田。今ここに立てるのは非常に光栄だ」と前置きした上で、大学の現状を説明。「明治大学がなぜ繁栄しているか。それは、



新支部長に選出され、あいさつする鶴田氏

卒業した皆さんが社会で活躍しているからだ」と強調した。

また山口柁義・校友会相談役は「秋田の総会に出席するのは7回目だが、若い人が非常に多いことにびっくりした」と率直な感想を述べた。

続いて2017年度の会務



科教授 中村 順子

自分らしく

「最期」まで

中村教授が記念講演

総会に先立ち、秋田大学大学院医学系研究科の中村順子教授による記念講演が行われた。写真。

演題は「自分らしく最期まで―人生の幕の引き方について考えてみませんか」。終末期における療養の在り方とい

報告と決算報告、2018年度の事業計画案と予算案、2018―2019年度の役員案をいずれも原案通り承認した。

引き続き行われた懇親会は、恒例の明大クイズ選手権大会などで大いに盛り上がった。最後は、今春まで応援団で活躍していた佐山達郎君（平成30年・政経卒）の迫力ある指揮に従い、全員が肩を組んで明治大学校歌を歌い上げた。

う重いテーマについて、豊富な経験に裏打ちされた説得ある語り口で説いた。

中村教授は「病院にお任せの時代は終わった」と述べ、その理由について「自分らしく暮らすことは病院では難しい。病院は治療の場であるから」と語った。そして住まいや医療、介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の必要性を強調した。

その上で、「介護が必要になつたらどうするか、延命処置をしてほしいかなど、元氣なうちから家族と話しておくことが重要」と述べ、「自宅か施設かの二者択一の時代ではない」と語気を強めた。

総会・懇親会に61人 平成卒業が18人も



荒川常勤理事



加賀前支部長



乾杯の音頭を取る太田氏



山口校友会相談役



全員で乾杯

秋田県支部役員 (2018—2019年度)

相談役	太田平八郎 (昭和28年・法卒)
	大城石基 (同30年・法卒)
	加賀勝己 (同40年・法卒)
支部長	鶴田有司 (同50年・経営卒)
副支部長	乳井宏資 (同37年・政経卒)
	木村友勝 (同39年・農卒)
	大地進 (同52年・政経卒)
	佐々木章 (同55年・商卒)
	蓮沼千佳子 (同57年・文卒)
	石川聡 (同58年・法卒)
	相場修 (同60年・政経卒)
	新出康史 (同61年・商卒)
	齋藤登則 (同62年・商卒)
監査委員	三浦正博 (同54年・商卒)
	大淵宏見 (同57年・政経卒)
	大友聡 (同52年・経営卒)
幹事	大坂良宏 (同58年・工卒)
事務局長	菅原亀代嗣 (平成20年・文卒)
事務局次長	加藤千秋 (昭和32年・経営卒)
幹事	辻昭夫 (同35年・法卒)
	遠藤欽一 (同37年・経営卒)
	鶴田悟一 (同37年・経営卒)
	三ツ倉和雄 (同39年・農卒)
	打川猛 (同40年・経営卒)
	長門靖彦 (同43年・法卒)
	大津勝呂

私はこの度、明治大学校友会秋田県支部総会におきまして、支部長にはからずもご指名いただき、就任させていただきました。これまで支部長を務められた加賀先輩のあとを継ぐということは、誠に恐れ多いことでありますし、荷が重すぎるところですが、会員の皆さまのご協力をいただき、微力ではありますが頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

実は、事前に打診があったところですが、私は横手の人間でありますし、それ以前に支部長として力不足であり、そこは否めないと



地方から母校の応援を

明治大学校友会秋田県支部
新支部長 鶴田 有 司

ころがあります。特に秋田市には名だたる先輩が多くおられることであり、当然のことながら支部長は秋田市の方が就任すべきものという認識でありました。ですから私で良いのだろうかという気持ち

あった、というのが正直なところだ。さて、私が在学中の頃の明治は、古めかしい校舎に男子学生ばかりがやたら目立つ、バンカラ風のイメージが漂っておりまして。ところが最近

では、校舎は瀟洒な建物に建て替えられ、御茶ノ水界限でも特にハイセンスな雰囲気にも変わってきているように感じます。教育方針も、国際化時代にふさわしいものに様変わりし

ているようであり、女子学生にも人気の垢抜けした大学に大変身を遂げています。また、ひとつ低迷していた大学スポーツでは、ラグビー部が今春、2015年以来公式戦無敗の帝京大学に勝利し、今年

の大学選手権では20年ぶりの王座奪還が期待されています。人口減少、少子化の時代にあつて、各大学とも生き残りかけた厳しい時代となっておりまして。そうした中で、私たちはあらためて明治大学で学んだことに誇りを持ち、さらなる大学発展に向けて地方から応援してまいりたいと思えます。

幹事	澤田 祐治 (昭和43年・商卒)
	菅原 道雄 (同44年・経営卒)
	松江 正和 (同48年・経営卒)
	佐々木 満 (同52年・商卒)
	東海林 洋 (同53年・法卒)
	進藤 勝実 (同54年・商卒)
	小松 科樹 (同54年・商卒)
	小松 伸 (同54年・商卒)
	桜庭 誠 (同56年・工卒)
	山崎 義裕 (同56年・工卒)
	打川 敦 (同56年・商卒)
	大高 浩和 (同59年・商卒)
	工藤 千里 (同61年・法卒)
	平川 利晴 (平成2年・工卒)
	遠田 博士 (同2年・経営卒)

幹事	川本 英樹 (平成2年・政経卒)
	稲葉 隆 (同3年・農卒)
	山本 茂毅 (同4年・法卒)
	大関 衛 (同4年・政経卒)
	白川 雅浩 (同4年・商卒)
	金子 敬司 (同4年・経営卒)
	藤井 裕二 (同5年・農卒)
	赤川 早人 (同8年・経営卒)
	佐々木 仁 (同10年・法卒)
	佐々木 貴徳 (同10年・法卒)
	麻木 仁 (同11年・法卒)
	加藤 圭輔 (同14年・商卒)
	奈良田 祐子 (同18年・政経卒)
	佐々木 貴寛 (同24年・経営卒)
	金子 雄太 (同26年・法卒)



校友の輪 こんなに広がる



収支計算書(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	決算額	差額
I 本部より助成金収入			
1 支部総会開催通知費	165,000	177,427	-12,427
2 支部総会会場費	180,000	188,600	-8,600
3 支部運営助成金	218,000	218,000	0
4 支部公開講演会会場費	0	0	0
5 講演会チラシ等作成費	0	0	0
II 支部会費収入	510,000	522,000	-12,000
III 総会費収入	300,000	290,000	10,000
IV 事業収入	0	0	0
V 寄付金収入	0	0	0
VI 特別寄付金収入	0	0	0
VII 果実収入	1,000	530	470
VIII 広報費	0	0	0
IX 雑収入	70,000	80,000	-10,000
X 基金取崩収入	0	0	0
収入合計	1,444,000	1,476,557	-32,557
前年度繰越収支差額	3,083,510	3,083,510	0
合計	4,527,510	4,560,067	-32,557
支出の部	予算額	決算額	差額
I 事業費			
1 学生表彰費	0	0	0
2 学生団体助成金	30,000	0	30,000
3 地域支部交流費	200,000	0	200,000
4 支部公開講演会費	0	0	0
5 熊本地震義援金	0	0	0
6 その他事業費	240,000	245,372	-5,372
II 広報費			
1 支部会報発行費	300,000	284,950	15,050
2 広報関係費	60,000	19,147	40,853
III 組織費			
1 地域支部助成金	0	0	0
IV 運営費			
1 会議費			
(1) 支部総会費	700,000	853,257	-153,257
(2) 役員会費	80,000	66,587	13,413
(3) 監査委員会費	10,000	0	10,000
(4) 委員会費	10,000	0	10,000
(5) 業務費	50,000	23,228	26,772
2 事務費	50,000	50,000	0
3 慶弔費	50,000	61,080	-11,080
V 積立金	0	510	-510
VI 予備費	0	0	0
支出合計	1,780,000	1,604,131	175,869
当年度収支差額	-336,000	-127,574	-208,426
次年度繰越額	2,747,510	2,955,936	-208,426
合計	4,527,510	4,560,067	-32,557

収支予算書(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	支出の部	予算額
I 本部より助成金収入		I 事業費	
1 支部総会開催通知費	165,000	1 学生表彰費	0
2 支部総会会場費	180,000	2 学生団体助成金	30,000
3 支部運営助成金	218,000	3 地域支部交流費	200,000
		4 支部公開講演会費	50,000
		5 その他事業費	200,000
II 支部会費収入	510,000	II 広報費	
III 総会費収入	300,000	1 支部会報発行費	300,000
IV 事業収入	0	2 寄付金収入	50,000
V 寄付金収入	0	III 組織費	
VI 果実収入	1,000	1 地域支部助成金	0
VII 雑収入	70,000	IV 運営費	
		1 会議費	
		(1) 支部総会費	780,000
		(2) 役員会費	70,000
		(3) 監査委員会費	10,000
		(4) 委員会費	10,000
		(5) 業務費	30,000
		2 事務費	50,000
		3 慶弔費	50,000
		V 積立金	0
収入合計	1,444,000	VI 予備費	0
		支出合計	1,830,000
前年度繰越収支差額	2,955,936	当年度収支差額	-386,000
合計	4,399,936	次年度繰越額	2,569,936
		合計	4,399,936

駿台ア・ラ・カルト

(明治大学HPより)

◆東京六大学野球で星野仙一氏追悼セレモニーを開催 東京六大学野球春季リーグ戦で明治大学の今季初戦となった4月21日の東大戦では、試合前に体育会硬式野球部OBである星野仙一氏(1969年政治経済学部卒)の追悼セレモニーが開催されました。両チームの関係者やスタン

寄稿・投稿

私は現在、政治経済学部の3年生で、体育会バレーボール部に所属しています。スポーツ特別入試で入学し、体育会としての活動をしつつ学業に励んでいます。当然、一般入試で入ってきた大半の学生に比べ、授業などの理解は大変ではあります。友人や先輩の力を借りながら単位の取得を目指しています。

体育会での活動は、学生日本一を目標に掲げ、週6回、授業が終わってから3時間前後の練習に取り組んでいます。バレーボール部は

下の観客が見守る中、神宮球場のバックスクリーンには星野氏の現役時代から監督時代までの雄姿が映し出され、グラウンドでは両チームの選手が整列し、黙とうが捧げられました。

◆明治大学体育会ラグビー部が関東大学春季大会(Aグループ)で初優勝しました 明治大学体育会ラグビー部は6月3日、明大八幡山グラウンドで行われた関東大学ラグ

現在大学トップクラスの関東1部リーグに所属しています。4月に行われた春季関東1部リーグでは、12チーム中6位とパツとしない結果でした。しかし、明大バレー部の大きな特徴でもある学生主体のチームづくりのもと、選手たち自身



明大の看板背負って

小松一哉

でチームが勝つための意見を出し合い、行動に移し、チーム力の向上を目指しました。それらのことが実を結び、先日行われた東日本インカレでは5年ぶりの入賞となる、3位入賞を果たしました。

ビー春季大会Aグループ第6週目で大東文化大と対戦し、80-14で勝利しました。この結果、春季大会初優勝を決めました。(中略) 今年の春季大会では、初戦で帝京大学を17-14で破ると、勢いそのままに東海大学、流通経済大学、慶應義塾大学に勝利し、同グループ5戦全勝。2012年からスタートした同大会で初めての優勝となりました。

明大バレー部ならではの学生主体の体制は、単にバレーボールの技術向上だけでなく、自主性、協調性などの人間性の部分でも他大学より成長できる環境が整っていると感じてい



スパイクを打つ筆者

ます。また、明大生としての看板を背負い活躍することは、とても誇りに感じています。明大は私たち体育会の学生も含め、すべての学生をさまざまな形でサポートする体制が整っており、今後大学を出てからも

万全の準備をして社会に出て活躍できると思います。それらのことは、たくさんの方の大学の関係者の支えがあつて成り立っているのだと思います。なので、残りの学生生活もそんな明大なら、もちろん両親を含めたさまざまな人たちに感謝しつつ、充実した学生生活を送れると確信しています。(政治経済学部3年・体育会バレーボール部)

校友会秋田県支部の事務局が次のように変わりました

〒010-0966

秋田市高陽青柳町17-45

(株)ビジネスデザイン研究所内

大坂 良宏

TEL 018-86214355

FAX 018-86218736



編集後記

人間の五感とは不思議なものである。時として、遠い昔の記憶を呼び起こす一種の装置になることがある。例えば味覚。幼い頃に食べた駄菓子。口にするだけで、瞬時に子供の時分にタイムスリップしてしまう▼聴覚や視覚も同じだ。なあーなどと感じたのは私だけではない。さる7月7日に開かれた校友会秋田県支部総会後の懇親会での出来事。今春まで応援団で活躍していた佐山達郎君(平成30年・政経卒)が学生服姿で登場し、あの明大節を見事に歌い上げたのだ▼「ここは お江戸か 神田の街か 神田の街なら 大学は明治」。思わず皆が口ずさむ。自らの青春時代に思いをはせるように。「ああ、懐かしい」と涙ぐむ校友もいた▼最後は全員が肩を組み、佐山君の指揮で校歌を斉唱。こんなに盛り上がった校友会も珍しい。五感をくすぐってくれた野村證券秋田支店勤務の佐山君に感謝、深謝だ。

(編集担当・大地進)